

## 2021年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2020年8月12日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社 A D E K A

コード番号 4401 URL <https://www.adeka.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 城詰 秀尊

問合せ先責任者 (役職名) 法務・広報部長 (氏名) 小八重 文武

TEL 03-4455-2803

四半期報告書提出予定日 2020年8月12日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有

(百万円未満切捨て)

### 1. 2021年3月期第1四半期の連結業績 (2020年4月1日～2020年6月30日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年3月期第1四半期	67,849	△3.3	5,046	12.3	4,512	6.7	3,104	△3.4
2020年3月期第1四半期	70,155	13.6	4,493	△16.5	4,229	△27.5	3,214	△21.4

(注) 包括利益 2021年3月期第1四半期 2,799百万円( 16.4%) 2020年3月期第1四半期 2,405百万円( △9.8%)

	1株当たり四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益	
	円	銭	円	銭
2021年3月期第1四半期	30	08	—	—
2020年3月期第1四半期	31	21	—	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年3月期第1四半期	399,003		249,498		52.6	
2020年3月期	409,452		250,634		51.4	

(参考) 自己資本 2021年3月期第1四半期 210,071百万円 2020年3月期 210,266百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金					
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計	
	円	銭	円	銭	円	銭
2020年3月期	—	24.00	—	24.00	48.00	
2021年3月期	—					
2021年3月期(予想)		24.00	—	24.00	48.00	

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 有

### 3. 2021年3月期の連結業績予想 (2020年4月1日～2021年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円	銭
第2四半期(累計)	135,000	△7.6	5,800	△35.7	5,100	△38.4	3,400	△42.6	32	94
通期	290,000	△4.6	16,000	△28.9	16,000	△27.2	10,000	△34.3	96	88

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注) 詳細は、添付資料9ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2021年3月期1Q	103,714,442株	2020年3月期	103,714,442株
② 期末自己株式数	2021年3月期1Q	490,275株	2020年3月期	490,003株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2021年3月期1Q	103,224,188株	2020年3月期1Q	102,983,643株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通しなどの将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績などは様々な要因により大きく異なる可能性があります。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	5
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	7
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間 .....	7
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間 .....	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	9
(継続企業の前提に関する注記) .....	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	9
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用) .....	9
(追加情報) .....	9
(セグメント情報等) .....	10

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間（2020年4月1日から同年6月30日）における世界経済は、新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大により急速かつ大幅に悪化しました。国内経済は、4月の緊急事態宣言による外出自粛などの影響もあり、個人消費や企業活動が著しく停滞し厳しい状況で推移しました。

当社グループ事業の主要対象分野である自動車関連分野は、世界的な自動車販売の減速及び自動車メーカーの生産調整等により生産台数が前年同期を下回りました。IT・デジタル家電分野は、テレワークの拡大やいわゆる「巣ごもり需要」によりパソコンやテレビの需要が増加した一方で、スマートフォンの需要は低迷しました。食品分野は、スーパー、ドラッグストアにおいて食パン、大袋菓子等の需要が増加した一方で、インバウンド需要の激減や外出自粛等により観光・外食産業は低調に推移しました。

このような厳しい事業環境ではありますが、当社グループは中期経営計画『BEYOND 3000』（2018年度～2020年度）の最終年度として、3つの基本戦略「3本柱の規模拡大（樹脂添加剤、化学品、食品）」「新規領域への進出」「経営基盤の強化」のもと、目標達成に向けて施策を推し進めています。

また、当社グループにおける新型コロナウイルス感染症への対応としましては、お客様ならびに従業員の安全を最優先にウェブ会議の活用やテレワークなど社内外への感染症拡大防止を推進しつつ、各国政府の政策に対応した形で事業活動を継続しました。

当第1四半期連結累計期間の業績につきましては、売上高は678億49百万円（前年同期比3.3%減）、営業利益は50億46百万円（同12.3%増）、経常利益は45億12百万円（同6.7%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は31億4百万円（同3.4%減）となりました。

なお、当第1四半期連結会計期間より、財務諸表上の重要性が増したため、艾迪科精細化工（浙江）有限公司、ADEKA AL OTAIBA MIDDLE EAST LLC、NICHINO EUROPE CO., LTD. の3社を連結の範囲に含めています。また同じく、NICHINO VIETNAM CO., LTD. を持分法の適用範囲に含めています。

報告セグメント別の概況は次の通りです。

**(化学品事業)**

当事業の売上高は360億49百万円（前年同期比8.8%減）、営業利益は37億2百万円（同22.7%減）となりました。

## ①樹脂添加剤

自動車の販売・生産台数が減少したことにより、自動車部材に使用される核剤、光安定剤、ゴム用可塑剤の販売が低調でした。

建材向けでは、住宅着工件数の減少により塩ビ用安定剤の販売が北米を中心に低調でした。

食品包装や医療用途では、感染予防対策として食品の個包装が増加したこと、また間仕切りシートや医療用ホース等の需要増加により、透明化剤、塩ビ用安定剤の販売が海外を中心に伸長しました。

自動車や家電、日用品などのプラスチック製品に幅広く使用される酸化防止剤は、価格競争の影響を受け販売が低調でした。

家電筐体向けエンジニアリングプラスチック用難燃剤は、テレワークの広がりによるパソコン需要の拡大に対し安定供給を実施したことで、中国、東南アジア等で販売が堅調に推移しました。

樹脂添加剤全体では、固定費の削減に努めたものの販売数量の減少等により、前年同期に比べ減収減益となりました。

## ②情報・電子化学品

半導体向けでは、DRAM向け新製品の出荷が着実に増え、NAND向け製品の販売も中国を中心に回復しました。また、リソグラフィ工程で使用される光酸発生剤等の販売が好調でした。一方で、既存製品の価格下落や為替の影響もあり全体では低調でした。

ディスプレイ向けでは、フラットパネルディスプレイ減産の影響により、光硬化樹脂、光重合開始剤の販売が低調に推移しました。また、プリント基板用エッチング薬液の販売も低調でした。

情報・電子化学品全体では、販売数量の減少や為替の影響により、前年同期に比べ減収減益となりました。

## ③機能化学品

自動車の販売・生産台数が減少したことにより、エンジンオイル用潤滑添加剤や特殊エポキシ樹脂の販売が低調に推移しました。また、一般工業向け界面活性剤、過酸化製品、プロピレングリコール類の販売も低調でした。

化粧品・トイレタリー向けでは、感染予防策として手洗い・消毒向け製品の販売が堅調に推移したものの、インバウンド需要の激減等により化粧品向け特殊界面活性剤の販売が国内外で低調でした。

機能化学品全体では、販売数量の減少と固定資産の減価償却費負担の増加等により、前年同期に比べ減収減益となりました。

## (食品事業)

当事業の売上高は163億70百万円(前年同期比6.1%減)、営業利益は2億30百万円(同6.0%減)となりました。

新型コロナウイルス感染症の拡大による内食需要の高まりを背景に、国内の製パン、製菓、ラーメン・カレー向けのマーガリン、ショートニング類の販売が堅調に推移しました。また、食品ロス削減や省力化に貢献する機能性マーガリンの採用が進みました。一方で、海外では中国、東南アジアでの移動制限に伴う営業活動の停滞もあり、製パン向けマーガリンの販売が低調でした。

洋菓子・デザート向けでは、ホイップクリームの販売が堅調に推移しました。

インバウンド需要の激減や外出自粛の影響を大きく受け、土産菓子向けのマーガリン、ショートニング、フィリング類の販売が低調でした。

食品事業全体では、高付加価値品の拡販に努めたものの販売数量の減少等により、前年同期に比べ減収減益となりました。

## (ライフサイエンス事業)

当事業の売上高は140億52百万円(前年同期比24.9%増)、営業利益は10億11百万円(前年同期は6億68百万円の営業損失)となりました。

農薬は、国内では、主力自社開発品目の普及拡販に努めた結果、販売が好調に推移しました。海外では、北米、欧州、インドなどでの販売が好調でした。一方で、南米地域ではブラジル市場の競争激化の影響などから、販売が低調でした。

医薬品は、爪白癬分野で外用抗真菌剤「ルリコナゾール」の販売が好調に推移しました。

ライフサイエンス事業全体では、海外での農薬販売の拡大等により、前年同期に比べ増収増益となりました。

(2) 財政状態に関する説明

資産、負債及び純資産の状況

総資産につきましては、前期末に比べ104億48百万円減少(前期比2.6%減)し、3,990億3百万円となりました。

主な要因は、受取手形及び売掛金の減少です。

負債につきましては、前期末に比べ93億12百万円減少(前期比5.9%減)し、1,495億5百万円となりました。

主な要因は、支払手形及び買掛金の減少です。

純資産につきましては、前期末に比べ11億36百万円減少(前期比0.5%減)し、2,494億98百万円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2021年3月期の連結業績予想につきましては、新型コロナウイルス感染症の拡大による業績への影響を精査中であったことから未定としていましたが、現時点で入手可能な情報に基づき算定し、公表することとしました。

詳しくは、本日公表の「業績予想及び配当予想に関するお知らせ」をご覧ください。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2020年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	62,827	61,811
受取手形及び売掛金	84,765	78,130
有価証券	1,500	1,500
商品及び製品	41,312	41,794
仕掛品	5,715	5,886
原材料及び貯蔵品	22,023	22,606
その他	9,921	8,354
貸倒引当金	△430	△467
流動資産合計	227,635	219,616
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	33,465	36,617
機械装置及び運搬具（純額）	40,258	42,197
土地	29,397	29,354
その他（純額）	10,109	10,898
有形固定資産合計	113,230	119,067
無形固定資産		
技術資産	8,455	8,207
顧客関連資産	2,971	2,930
その他	4,943	5,225
無形固定資産合計	16,370	16,363
投資その他の資産		
投資有価証券	31,335	32,127
その他	20,881	11,829
投資その他の資産合計	52,216	43,956
固定資産合計	181,816	179,387
資産合計	409,452	399,003

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2020年6月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	46,125	40,182
短期借入金	21,823	19,923
未払法人税等	3,700	1,750
賞与引当金	3,145	1,601
その他の引当金	130	57
その他	17,778	26,805
流動負債合計	92,704	90,321
固定負債		
社債	12,249	11,751
長期借入金	20,297	13,727
退職給付に係る負債	20,072	20,260
その他の引当金	260	183
その他	13,233	13,261
固定負債合計	66,114	59,184
負債合計	158,818	149,505
純資産の部		
株主資本		
資本金	22,994	22,994
資本剰余金	19,986	19,986
利益剰余金	158,872	158,648
自己株式	△441	△457
株主資本合計	201,412	201,172
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	6,541	7,724
土地再評価差額金	4,253	4,253
為替換算調整勘定	155	△1,047
退職給付に係る調整累計額	△2,096	△2,030
その他の包括利益累計額合計	8,854	8,899
非支配株主持分	40,367	39,426
純資産合計	250,634	249,498
負債純資産合計	409,452	399,003



## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自2020年4月1日 至2020年6月30日)
売上高	70,155	67,849
売上原価	51,895	49,865
売上総利益	18,260	17,983
販売費及び一般管理費	13,766	12,936
営業利益	4,493	5,046
営業外収益		
受取利息	109	67
受取配当金	289	219
持分法による投資利益	63	234
その他	119	346
営業外収益合計	581	867
営業外費用		
支払利息	287	227
為替差損	366	1,102
その他	191	71
営業外費用合計	845	1,401
経常利益	4,229	4,512
特別損失		
固定資産廃棄損	46	28
特別損失合計	46	28
税金等調整前四半期純利益	4,183	4,483
法人税、住民税及び事業税	1,549	1,652
法人税等調整額	△512	△233
法人税等合計	1,036	1,418
四半期純利益	3,146	3,064
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△67	△40
親会社株主に帰属する四半期純利益	3,214	3,104

(四半期連結包括利益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自2020年4月1日 至2020年6月30日)
四半期純利益	3,146	3,064
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△797	1,520
為替換算調整勘定	△247	△1,620
退職給付に係る調整額	63	63
持分法適用会社に対する持分相当額	239	△228
その他の包括利益合計	△741	△265
四半期包括利益	2,405	2,799
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,554	3,150
非支配株主に係る四半期包括利益	△148	△351

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

一部の子会社については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しています。

(追加情報)

(新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響に関する会計上の見積り)

新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響については、当感染症の終息時期やその影響の程度を合理的に予測することは困難なことから、当社グループでは、2021年3月期の一定期間にわたり当該影響が継続するという仮定に基づいて、固定資産の減損及び繰延税金資産の回収可能性等の会計上の見積りを行っております。なお、前連結会計年度の有価証券報告書で記載した内容から重要な変更はありません。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

## I 前第1四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
	化学品事業	食品事業	ライフサイ エンス事業	計				
売上高								
(1) 外部顧客への売上高	39,540	17,437	11,253	68,231	1,923	70,155	—	70,155
(2) セグメント間の 内部売上高又は振替高	30	14	1	46	3,547	3,593	△3,593	—
計	39,570	17,452	11,255	68,278	5,471	73,749	△3,593	70,155
セグメント利益又は損失(△)	4,790	245	△668	4,367	94	4,462	31	4,493

(注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、工事及び工事管理、物流業、不動産業等を含んでいます。

2 セグメント利益又は損失(△)の調整額31百万円は、セグメント間取引消去額を含んでいます。

3 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っています。

## II 当第1四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
	化学品事業	食品事業	ライフサイ エンス事業	計				
売上高								
(1) 外部顧客への売上高	36,049	16,370	14,052	66,471	1,377	67,849	—	67,849
(2) セグメント間の 内部売上高又は振替高	18	4	1	24	3,502	3,526	△3,526	—
計	36,067	16,374	14,053	66,495	4,880	71,376	△3,526	67,849
セグメント利益	3,702	230	1,011	4,944	96	5,041	5	5,046

(注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、工事及び工事管理、物流業、不動産業等を含んでいます。

2 セグメント利益の調整額5百万円は、セグメント間取引消去額を含んでいます。

3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っています。